

秋山の自然と人間

— その歴史と文化を考える5(最終回) —

山村として有名な秋山郷やその周辺地域の人々は自然とどのように関わりをもち、どのような歴史的な社会を築いて生活してきたのだろうか—その姿を総合的に解き明かそうとする研究が2006(平成18)年度より行われてきました。

この研究にあたっては、地元の方々のご協力のもと、地理・歴史・民俗・生態・地形など各分野の専門家が実際に共同で現地調査を行い、これまでに知られていない新たな知見が多く見出されてきました。

最終年度の調査・研究を終えるにあたり、今年度も研究成果報告会を開催することとなりました。多くの興味深い報告が予定されています。この機会にぜひ会場にお運びいただき、最新の研究成果に触れてみてください。

【日時】 3月5日(土)／6日(日) 両日とも午後1時開始

【会場】 長野県下水内郡栄村

3月5日(土) 栄村役場「かたくりホール」

3月6日(日) 秋山総合センター「とねんぼ」

☆☆ プログラム詳細 ☆☆

【 5日(土) 栄村役場「かたくりホール」 】

「最終氷期の秋山を旅する」
(長谷川裕彦／明治大学・自然地理学)

「栄村周辺の古文書～これまでの史料調査を振り返る～」
(荒垣恒明／東京工業高等専門学校・歴史学)

「旧家に残された御祓大麻・お札類は何を語るのか？
～十日町西方の信仰関係資料調査報告～」
(井上卓哉／富士市立博物館・民俗学)

「御林の記録からよみがえる江戸時代の森林」
(小山泰弘／長野県林業総合センター・林学)

「村はなぜ滅びたか～飢饉と村の消滅を考える～」
(白水 智／中央学院大学・歴史学)

【 6日(日) 秋山総合センター「とねんぼ」 】

「雪が彩る秋山の景観」
(佐々木明彦／信州大学・自然地理学)

「山を見張る～巢守甚右衛門見分記～」
(鈴木 努／横須賀市史・歴史学)

「秋山郷の焼畑耕作・再考」
(関戸明子／群馬大学・人文地理学)

「続・秋山銅山再考」
(柴崎啓太／中央大学大学院・歴史学)

「近世銅山跡に迫る～巡検記～」
(辻野 亮／総合地球環境学研究所・生態学)